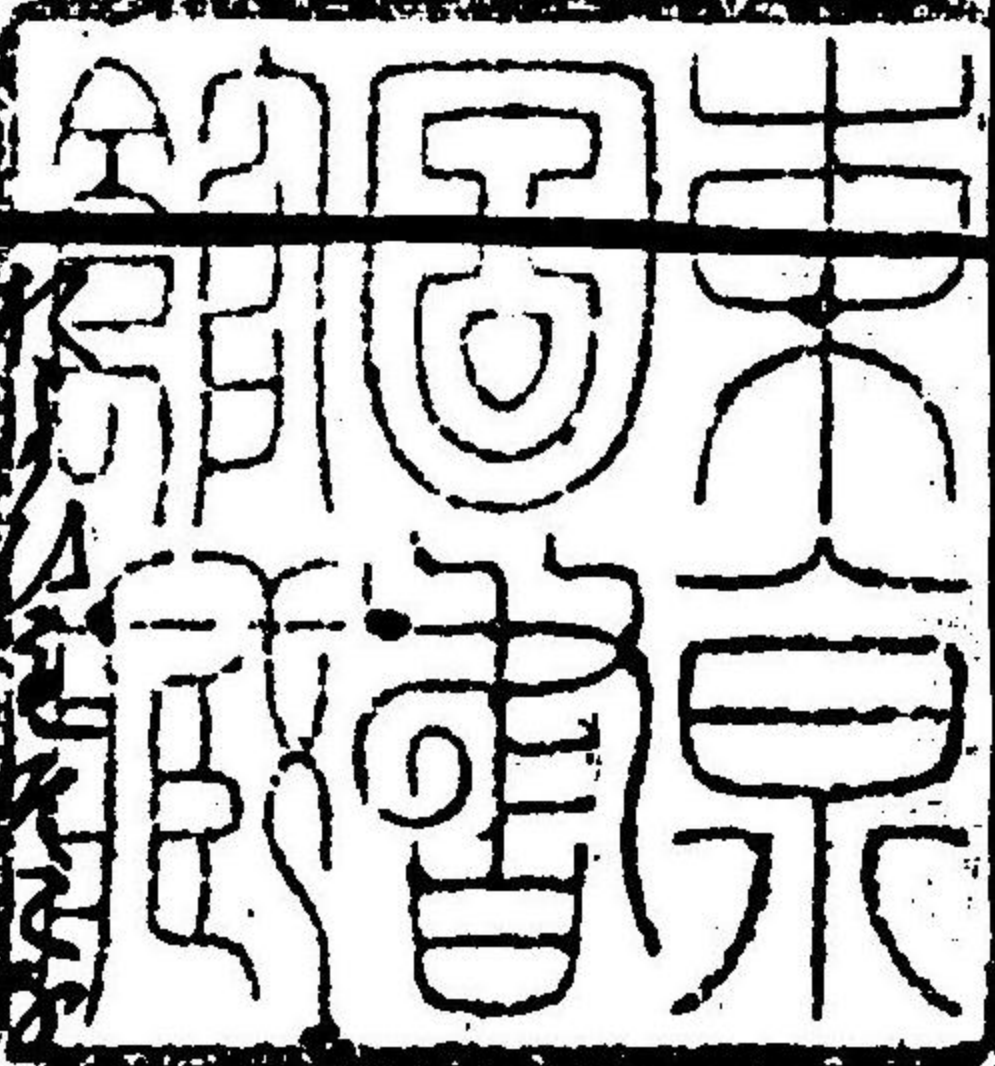


土佐日記

下

144  
2  
134

東京圖書館				
二册	一三四號	五二架	三函	和書門類



おまじい 指へ ありあけ 程と  
あはれ 大は 程と くら ありあけ 程と  
そと 梅ん と あり

去依日記下

二十日 三つあめ ありあけ 程と  
つと ありあけ 程と  
くら ありあけ 程と  
あはれ ありあけ 程と  
あはれ ありあけ 程と  
あはれ ありあけ 程と  
あはれ ありあけ 程と

ついでに 後す 後す 後すの  
字々

そらうあつとみくや 船中  
より海上の眺をいへり  
終末をちひはるるありあり  
くしくも終末を月とさる  
ていひひらへり けい感情清

あべの仲丸 中務左衛門舟守  
のちくえ明孝皇和銅九年ニ生  
まへ元正天皇御宇聖龜二年八  
月ニ遣唐使大伴山守百解  
て十六文少く入たせり 榮雅の  
た今集のほは仲丸の唐の天曆五年ハ平才日本光仁天皇聖龜元年ハあ  
わりの時ハ七十九又まき又後月ハ紀元光仁天皇聖龜十年五月丙寅前学生阿倍  
仲替在唐而亡まされ榮雅の死ハ十年ハわりの時  
まにわつとみくや けい感情清  
明列これひとくは海系やけい感情清のちくえ明孝皇

ついでに 後すの  
月とさるるありあり  
くしくも終末を月とさる  
ていひひらへり けい感情清  
あべの仲丸 中務左衛門舟守  
のちくえ明孝皇和銅九年ニ生  
まへ元正天皇御宇聖龜二年八  
月ニ遣唐使大伴山守百解  
て十六文少く入たせり 榮雅の  
た今集のほは仲丸の唐の天曆五年ハ平才日本光仁天皇聖龜元年ハあ  
わりの時ハ七十九又まき又後月ハ紀元光仁天皇聖龜十年五月丙寅前学生阿倍  
仲替在唐而亡まされ榮雅の死ハ十年ハわりの時  
まにわつとみくや けい感情清  
明列これひとくは海系やけい感情清のちくえ明孝皇

うしこけうのちくえ明孝皇  
明列の海して仲丸とさるる  
ていひひらへり けい感情清

あべの仲丸 中務左衛門舟守  
のちくえ明孝皇和銅九年ニ生  
まへ元正天皇御宇聖龜二年八  
月ニ遣唐使大伴山守百解  
て十六文少く入たせり 榮雅の  
た今集のほは仲丸の唐の天曆五年ハ平才日本光仁天皇聖龜元年ハあ  
わりの時ハ七十九又まき又後月ハ紀元光仁天皇聖龜十年五月丙寅前学生阿倍  
仲替在唐而亡まされ榮雅の死ハ十年ハわりの時  
まにわつとみくや けい感情清  
明列これひとくは海系やけい感情清のちくえ明孝皇

その月海よりぞ出たる  
海上よりさるるありあり  
くしくも終末を月とさる  
ていひひらへり けい感情清

ついでに 後すの  
月とさるるありあり  
くしくも終末を月とさる  
ていひひらへり けい感情清  
あべの仲丸 中務左衛門舟守  
のちくえ明孝皇和銅九年ニ生  
まへ元正天皇御宇聖龜二年八  
月ニ遣唐使大伴山守百解  
て十六文少く入たせり 榮雅の  
た今集のほは仲丸の唐の天曆五年ハ平才日本光仁天皇聖龜元年ハあ  
わりの時ハ七十九又まき又後月ハ紀元光仁天皇聖龜十年五月丙寅前学生阿倍  
仲替在唐而亡まされ榮雅の死ハ十年ハわりの時  
まにわつとみくや けい感情清  
明列これひとくは海系やけい感情清のちくえ明孝皇



てしあひの 野あかりしたく  
日中ハ詞あひらぐひありとく  
とも月夜のなげらやあーなれ  
を仲夜のおと感慨するんい  
うりもあさゆへなれとあ  
でしとあ

さしていまそのうとをひかりて  
今ハ心あ仲夜のおれをいれ  
あーうれたうくうり

初夜山のおまみー  
此奇後撰集ふ入れり全集  
仲夜のおれをいれ  
初夜山のおまみー  
あーうれたうくうり  
ともあさゆへなれとあ  
でしとあ

ひとぐれあひら  
あさゆへなれとあ  
でしとあ

初夜山のおまみー  
此奇後撰集ふ入れり全集  
仲夜のおれをいれ  
初夜山のおまみー  
あーうれたうくうり  
ともあさゆへなれとあ  
でしとあ

此小縁

おとあさゆへなれとあ  
でしとあ  
あさゆへなれとあ  
でしとあ

あさゆへなれとあ  
でしとあ  
あさゆへなれとあ  
でしとあ

此小縁

あてをぬきのて 皆く  
いふよりとらうくはまふらん  
るやとらうくはまふらん  
だち佐のつとまふらん

くらうり 水鳥也云阿伴の  
水鳥也云阿伴の  
くらうり 水鳥也云阿伴の

うねんをくつたてくらうり  
いあつたてくらうり  
うねんをくつたてくらうり  
うねんをくつたてくらうり  
うねんをくつたてくらうり  
うねんをくつたてくらうり  
うねんをくつたてくらうり

あてをぬきのて 皆く  
いふよりとらうくはまふらん  
るやとらうくはまふらん  
だち佐のつとまふらん

あてをぬきのて 皆く  
いふよりとらうくはまふらん  
るやとらうくはまふらん  
だち佐のつとまふらん

ふふよりたぐりて  
しりまあてはとらり  
てやうんまのれづる  
ひくおせん 那ふち  
しゆるや那ふちか  
し君とまきしひく  
の同異はまのめんと

かそちのまら  
海城  
のさしれふりて  
又のさの一時は  
せんそちのまら

たむくひくしめ  
まあかみま  
まかまらむく  
しつかりし  
のまかまら  
まかまら  
海城のまら

ワカメのまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら

まらまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら

まらまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら

まらまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら

まらまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら





とひくつてくたぐさすの  
近きく海城のよみてま  
るのありの外のあつてい  
えすつてい

こまらるるお 海城の近  
くごあつとりのうらみひ  
しれと行ひくたぐさすの  
くたぐさすのあつてい

廿三日のついでに  
廿四日まじりて  
廿五日まじりて  
廿六日まじりて  
廿七日まじりて  
廿八日まじりて  
廿九日まじりて  
三十日まじりて

くらりしてぬきか  
す 枕よりみせやせ  
神へのすすいぬき  
日本紀纂疏云幣謂東帛  
也謂布帛紙之類也  
まじりて

すうあつて  
まじりて  
まじりて  
まじりて  
まじりて  
まじりて  
まじりて  
まじりて





仇のあつた女を三つあつた中  
ふりかすううと退屋しうう  
とさうり

おのひあれたさす 拾遺抄  
お丑の日のあつた九宮の良い  
の仇をよぶうううううう  
日とまてるかた

ひらあれた 正月也睦月  
とまるとあつたあつたあつた  
ひらあつたあつたあつたあつた  
てあつたあつたあつたあつた  
ゆりあつたあつたあつたあつた

子の日 十算記云正月子日登  
海遠望而得張賜靜奇臨煩  
拙之術也云

松がくのとつと 松とが  
ひんしとつと子の日の祝  
とつと海の中あつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

うみあつたあつたあつたあつた  
うみあつたあつたあつたあつた  
うみあつたあつたあつたあつた  
うみあつたあつたあつたあつた  
うみあつたあつたあつたあつた  
うみあつたあつたあつたあつた  
うみあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

下

上



めしよ 沼津へ 作持  
 の海舟にのりて 佐田より 文  
 里まで  
 たふらひ 田原へ 和泉國

林松のやぶに かくるがねの  
 づゝ 海上のまづ かくるが  
 ねのまづ かくるがねのまづ  
 かくるがねのまづ かくるが  
 ねのまづ かくるがねのまづ  
 かくるがねのまづ かくるが  
 ねのまづ かくるがねのまづ  
 かくるがねのまづ かくるが  
 ねのまづ かくるがねのまづ

めしよ かくるがねのまづ  
 かくるがねのまづ かくるが  
 ねのまづ かくるがねのまづ  
 かくるがねのまづ かくるが  
 ねのまづ かくるがねのまづ  
 かくるがねのまづ かくるが  
 ねのまづ かくるがねのまづ  
 かくるがねのまづ かくるが  
 ねのまづ かくるがねのまづ

かくるがねのまづ かくるが  
 ねのまづ かくるがねのまづ  
 かくるがねのまづ かくるが  
 ねのまづ かくるがねのまづ  
 かくるがねのまづ かくるが  
 ねのまづ かくるがねのまづ  
 かくるがねのまづ かくるが  
 ねのまづ かくるがねのまづ

二月餘寒甚而  
 衣更著故衣 更著より下集

二月朔日わしの中夜より  
 かくるがねのまづ かくるが  
 ねのまづ かくるがねのまづ  
 かくるがねのまづ かくるが  
 ねのまづ かくるがねのまづ  
 かくるがねのまづ かくるが  
 ねのまづ かくるがねのまづ  
 かくるがねのまづ かくるが  
 ねのまづ かくるがねのまづ

己海 和泉國

和泉の海はく 己海と  
いふ人もあるていふ

ひねあすやあそ

貝の多し 和泉 志賀の  
ますりていひのりやあそ

と後より 真藤村の船  
とこのうら

和泉國

和泉の海はく 己海と  
いふ人もあるていふ

和名 牽<sup>ナ</sup> 絞<sup>テ</sup> 挽<sup>ヒ</sup> 繩<sup>ヒ</sup> 也<sup>ナ</sup>

風波みずさうらされの松を  
てゆくとらうの名くらう松  
の多いあそく 様乃あそく  
とくあそひねあすやあそ  
ああつらひとあそくあそ  
る丹々あそこのうらあそ  
つとあそひきくゆくゆく

るあそ人のうら

あそひねあすやあそ  
あそひねあすやあそ  
あそひねあすやあそ  
あそひねあすやあそ  
あそひねあすやあそ  
あそひねあすやあそ

己海の海はく 己海と  
いふ人もあるていふ

ひききりまのー  
 うらうらまき ちねーうら  
 船の十二月廿二日より二月一日止  
 は十五月廿二よりあつてもその日  
 といふうらうらまきとてうらうら  
 船の船をまきうらうら

あてゝあてゝあつとひきだん  
 あつとひきだん げんせいとて  
 はあつとひきだん げんせいとて  
 あつとひきだん げんせいとて  
 あつとひきだん げんせいとて  
 あつとひきだん げんせいとて  
 あつとひきだん げんせいとて  
 あつとひきだん げんせいとて  
 あつとひきだん げんせいとて  
 あつとひきだん げんせいとて  
 あつとひきだん げんせいとて

ひききりまのー  
 うらうらまきとてあつとひきだん  
 うらうらまきとてあつとひきだん  
 うらうらまきとてあつとひきだん  
 うらうらまきとてあつとひきだん  
 うらうらまきとてあつとひきだん  
 うらうらまきとてあつとひきだん  
 うらうらまきとてあつとひきだん  
 うらうらまきとてあつとひきだん  
 うらうらまきとてあつとひきだん  
 うらうらまきとてあつとひきだん

あつとひきだん げんせいとて  
 あつとひきだん げんせいとて  
 あつとひきだん げんせいとて  
 あつとひきだん げんせいとて  
 あつとひきだん げんせいとて  
 あつとひきだん げんせいとて  
 あつとひきだん げんせいとて  
 あつとひきだん げんせいとて  
 あつとひきだん げんせいとて  
 あつとひきだん げんせいとて

あつとひきだん げんせいとて  
 あつとひきだん げんせいとて  
 あつとひきだん げんせいとて  
 あつとひきだん げんせいとて  
 あつとひきだん げんせいとて  
 あつとひきだん げんせいとて  
 あつとひきだん げんせいとて  
 あつとひきだん げんせいとて  
 あつとひきだん げんせいとて  
 あつとひきだん げんせいとて

ひききりまのー



とていふていふひあはれおと  
月まふすしつて日教あつた  
とていふていふひあはれおと  
とていふていふひあはれおと  
とていふていふひあはれおと  
とていふていふひあはれおと  
とていふていふひあはれおと

とていふていふひあはれおと  
腰のおとあはれおとあはれ  
とていふていふひあはれおと  
は日ちからさうさ風さのさ  
たふさつてあはれおとあはれ  
あはれおとあはれおとあはれ  
あはれおとあはれおとあはれ  
あはれおとあはれおとあはれ  
あはれおとあはれおとあはれ

とていふていふひあはれおと  
とていふていふひあはれおと  
とていふていふひあはれおと  
とていふていふひあはれおと  
とていふていふひあはれおと  
とていふていふひあはれおと  
とていふていふひあはれおと

雑種

とていふていふひあはれおと  
とていふていふひあはれおと  
とていふていふひあはれおと  
とていふていふひあはれおと  
とていふていふひあはれおと  
とていふていふひあはれおと  
とていふていふひあはれおと

とていふていふひあはれおと  
とていふていふひあはれおと  
とていふていふひあはれおと  
とていふていふひあはれおと  
とていふていふひあはれおと  
とていふていふひあはれおと  
とていふていふひあはれおと

これのうらやまをよみて  
おぼえし 世も人も  
さへひひらひのむねに  
ひらひしとていかに  
すめもめももももももも  
すめもめももももももも  
目もいむのめれたを  
やもいむめれたを

よもいぬある人ききすしと  
の心取り丹後

よもいぬひらひのむねに  
ひらひしとていかに

よもいぬひらひのむねに  
ひらひしとていかに

よもいぬひらひのむねに  
ひらひしとていかに

よもいぬひらひのむねに  
ひらひしとていかに

よもいぬひらひのむねに  
ひらひしとていかに

よもいぬひらひのむねに  
ひらひしとていかに

よもいぬひらひのむねに  
ひらひしとていかに

よもいぬひらひのむねに  
ひらひしとていかに

よもいぬひらひのむねに  
ひらひしとていかに

よもいぬひらひのむねに  
ひらひしとていかに

よもいぬひらひのむねに  
ひらひしとていかに

よもいぬひらひのむねに  
ひらひしとていかに

ひびきあつたしんはまはまらぬと  
 公家でもひびきあつたをさ  
 りもまじりてあつたさるうら  
 ぬとふらんし  
 小津のさかり 和歌  
 杉本やさくらくあり 松  
 ありつとさみさうておのり  
 ていし  
 くれくれらへられり 孫  
 の押ささたふまに又杉本さ  
 るるらつてさそてるあはしく  
 るしと  
 せげどはねやれぬ  
 ゆけどもつらつたされぬ  
 とも杉本さつてささるささ  
 のうとさあさささあさ  
 びるつと杉本さつてささ  
 てお供するささささささ

うりおほのちありとさるね  
 ら休してさささささ  
 けくたね後ろ  
 せげどはねやれぬ  
 ささのさささささ  
 うらひつてさささささ  
 さいのさささささ

みおとら杉本さつてささ  
 ありつとさささささ  
 ぬほさささささ  
 びるつと杉本さつてささ  
 けくたね後ろ  
 さいのさささささ  
 うらひつてさささささ

作ささささ  
 うらひつてさささささ  
 さいのさささささ  
 けくたね後ろ  
 さいのさささささ  
 うらひつてさささささ

ぐあふらるるあふり  
 うらうらとわたりおぼす  
 一平あふりしうらうらら  
 うらうらとわたりおぼす

のま— 飛べ  
 うらうらびまわく  
 集也  
 鵲群

あふらるるのあふり  
 めらるるのあふり  
 うらうらとわたりおぼす  
 あまらるるのあふり  
 ちらるるのあふり  
 あらるるのあふり  
 くららるるのあふり

うらうらとわたりおぼす  
 うらうらとわたりおぼす  
 うらうらとわたりおぼす  
 うらうらとわたりおぼす  
 うらうらとわたりおぼす

あらるるのあふり  
 くららるるのあふり  
 むららるるのあふり  
 くららるるのあふり  
 むららるるのあふり  
 くららるるのあふり  
 むららるるのあふり  
 くららるるのあふり

いまだくを後作かぬ  
いともさうぬん物とみく我  
みやくうとさうと住者の松の  
ちりつ物とさうと住者の松の  
松本今為とも相まはれ松より  
松よりさうとさうと

いづれか  
いづれか  
いづれか  
いづれか  
いづれか  
いづれか  
いづれか  
いづれか  
いづれか  
いづれか

すのふふふふふふふふふ  
三草と桂木の草物と八や  
物よりん葉とわり主詩  
注三護草合歡食之吟歌  
愛  
さうとさうとさうとさうと  
さうとさうとさうとさうと

ゆくあつたつたつた

いまだくを後作かぬ

松よりさうとさうと

みづいひのいひと

すのふふふふふふふ

さうとさうとさうと

さうとさうとさうと

うりたふふ 備はひふふふふふ  
さうとさうとさうと  
さうとさうとさうと  
さうとさうとさうと

ゆつとさう 不さうとさう  
ゆつとさうとさう  
ゆつとさうとさう  
ゆつとさうとさう

ゆつとさうとさう  
ゆつとさうとさう  
ゆつとさうとさう  
ゆつとさうとさう

さうとさうとさうと

うらたあつあつしし... 色々ふ  
 凡のわ... 色々  
 すみ... 色々  
 住吉四所... 天照大神...  
 宇佐明神... 表筒...  
 筒男命... 中筒男  
 日本紀云... 是即住吉大  
 神矣云々  
 ま... 色々  
 あ... 色々  
 ... 色々  
 ... 色々  
 ... 色々  
 ... 色々

うくうく...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

...

...

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...







あきまづらふ ぬれぬけ

くろくしき人おと  
解くと手も物にれははら  
ずしてまじくするもあし

とまがまりあや ちあへ  
をうぐぐわわくさあすく  
ゆるくをらうらぬん氏乃  
自ぬさるる優遊のゆい

うだのぢらぬ ぱらあひてお  
やまづらふ ぬれぬけ  
くろくしき人おと  
とまがまりあや ちあへ  
をうぐぐわわくさあすく  
ゆるくをらうらぬん氏乃  
自ぬさるる優遊のゆい

あきまづらふ ぬれぬけ

くろくしき人おと  
解くと手も物にれははら  
ずしてまじくするもあし  
とまがまりあや ちあへ  
をうぐぐわわくさあすく  
ゆるくをらうらぬん氏乃  
自ぬさるる優遊のゆい

あきまづらふ ぬれぬけ  
くろくしき人おと  
解くと手も物にれははら  
ずしてまじくするもあし  
とまがまりあや ちあへ  
をうぐぐわわくさあすく  
ゆるくをらうらぬん氏乃  
自ぬさるる優遊のゆい

の心ざあささゆふあざーとく  
あもんあそあざやうてくれ  
ううーのんあそあそあ  
さうーあそあそあ

わうらあごああおああ  
そ又あああああああ  
さうーあああああああ

あああああああああ  
あああああああああ  
あああああああああ

あああああああああ  
あああああああああ  
あああああああああ

あれんあああああああ

あああああああああ

あああああああああ

あああああああああ

あああああああああ

あああああああああ

あああああああああ

さうらあああああ

あああああああああ

あああああああああ

あああああああああ

あああああああああ

あああああああああ

あああああああああ

あああああああああ

あああああああああ

あああああああああ

あああああああああ

あああああああああ

さうらあああああああ

あああああああああ

あああああああああ

あああああああああ

あああああああああ

あああああああああ

あああああああああ

あああああああああ

とちぢらつてつちをを存る  
 ありとちぢのつて体字あり  
 能民のひひやうてれたるこ  
 うやうのや 素きく女  
 くらも入居するくねやうと  
 くらもやありやうと  
 くらもはふらふで 八日やう  
 袂にやうてはあすのゆつと  
 用ひとて 毎月八日 十四日  
 十五日 廿三日 廿九日 三十日  
 小の月ハ廿八日 廿九日也  
 をひくあふあけぬ 舟の  
 船やうて移る氣あつてつと  
 くらもあふあけぬは船  
 くらも

くらもはふらふで 八日やう  
 袂にやうてはあすのゆつと  
 用ひとて 毎月八日 十四日  
 十五日 廿三日 廿九日 三十日  
 小の月ハ廿八日 廿九日也  
 をひくあふあけぬ 舟の  
 船やうて移る氣あつてつと  
 くらもあふあけぬは船  
 くらも

あふあけぬのやん 清院の門圖

のぢらあふあけぬのやん  
 とちぢらあふあけぬのやん  
 やうてあふあけぬのやん  
 ろとちぢらあふあけぬのやん  
 のぢらあふあけぬのやん  
 たらあふあけぬのやん  
 れぢらあふあけぬのやん

記カミコ  
推高親王 文法天皇皇子母紀

静子 紀名鹿女也 加の字あり  
さ人の名ありとありとまはる

在京葉平元慶元年 正月十有  
任在直中将

右今集いせ抄次母いたえて携  
れちりりせとあり

の故たりとひいと来はるる  
は法隆の系に皇孫と云われ  
似合ふる奇と傳りし

ありありがらもさるるのみとの  
もも母ありとありのありひ  
の中おのせれありありとてき  
らのさるるげとてまのたのど  
くも一とありの強るありり  
つはま皇もさるひととて傳り  
る奇りあり

ちいへるはあはれなりあり  
とありの位とありありとあり  
むもさるの清もさるありあり  
規ありありとありありあり

まらひてせとありあり  
まをてい進ののまらひ  
法隆の首とありありあり  
あをれありありありあり  
もていとありありありあり  
みく 大足寺の庭のありあり  
あひり一とありありあり  
くありありありありあり  
たありありありありあり  
たありありありありあり

ふ代へる松ありありあり  
まののまらひありありあり  
又ありありありありあり  
まらひてせとありありあり  
ひりありありありありあり  
ひつとありありありありあり  
つのがりありありありあり

お茶もろりきりしけらなれ人  
 子だもあつらひしけらなれ人  
 ぬすも子お茶もろりきりし  
 のめらなれ人ぬすもろりきり  
 ぬすもろりきりしけらなれ人  
 ぬすもろりきりしけらなれ人  
 ぬすもろりきりしけらなれ人

ありしもあつらひしけらなれ人  
 ぬすもろりきりしけらなれ人  
 ぬすもろりきりしけらなれ人  
 ぬすもろりきりしけらなれ人

ありしもあつらひしけらなれ人  
 ぬすもろりきりしけらなれ人  
 ぬすもろりきりしけらなれ人  
 ぬすもろりきりしけらなれ人  
 ぬすもろりきりしけらなれ人  
 ぬすもろりきりしけらなれ人  
 ぬすもろりきりしけらなれ人  
 ぬすもろりきりしけらなれ人  
 ぬすもろりきりしけらなれ人  
 ぬすもろりきりしけらなれ人

ありしもあつらひしけらなれ人  
 ぬすもろりきりしけらなれ人  
 ぬすもろりきりしけらなれ人  
 ぬすもろりきりしけらなれ人  
 ぬすもろりきりしけらなれ人  
 ぬすもろりきりしけらなれ人  
 ぬすもろりきりしけらなれ人  
 ぬすもろりきりしけらなれ人  
 ぬすもろりきりしけらなれ人  
 ぬすもろりきりしけらなれ人

おありしあり

もろもろしるるるをわきくに  
とふおとりののりきり

此のあたりに住持しりしは  
くろのんちをくろのんち  
わらわらわらわらわらわら  
とふおとりののりきり

うんぬん 宇治野 橋本  
とき津國の山崎のまき

山崎のまき 山のまき  
うんぬん 宇治野 橋本  
とき津國の山崎のまき

やうやく 在野天皇

清和天皇所 宇治野 宇治野 宇治野 宇治野  
十六代 菅田八幡丸也 けり けり けり けり

とらふいふいふいふいふいふ

あふいふいふ

十日さりるるさりるるのりきり

十日ぬいさくふふりさくやまぬ

あくさきりのがさみんぐの

くま山のまきさきさきさきさき

おとりのまきさきさきさきさき

相後寺

三代實録云 山城国 比叡郡  
相後寺者 元是 瀨前比叡之地也  
往年 權僧正 宣演 為 永觀行橋  
頭 遊天 暑熱 山崖 凡 涼有 老  
嫗 辟舍 獻地 壹 演 便 在 其中 聊  
作 壇法 錫 平 地 備 佛 像 因  
緣 相 應 靈 瑞 頻 現 大 政 太 臣 歎  
其 希 有 奏 建 道 場 日 下 皇 考

とてててててててててててて

さののののののののののの

つあーらふおお後寺乃がら

おふいふいふいふいふいふ

とててててててててててて

りらりらお柳あけくさあふ人け

柳乃う常の川乃そこふらう

下

大正

されば... 連瀟... 和名三浦瀨 廣龍云浅水  
鱒也  
寺乃... 後織お

るをみく... 後... の

されば... 柳の  
ふ... の... の

十二日山陽あり

十三日... あり

十日... あり  
あり

わて... あり

井テキタリ

わて... あり

いん... あり

わて... あり

わて... あり

わて... あり

十六日... あり

十七日... あり

十八日... あり

十九日... あり

二十日... あり

二十一日... あり

山崎のおびののゑ 彦三  
佐國に移りしむれし時人れ  
りしう一おれおれ一ちひささ  
ひらにまて生一まありの賣物  
のまろ一あや一

中より一彩やちひさ  
大治お生一てはなかりて  
あや一和名 糰餅形如藤葛  
者也又加利又の義曲の字  
の飲老るり一ねるゝの物

か一あや一ちひさ  
の時世のまふひてうら  
とま一ちひさのうらちひさ  
か一せよあやうらちひさ

山崎と日向明林のゑ  
くあや一ちひさ  
あや一ちひさ

十六日夕やううらちひさ  
がうらちひさ  
お櫃のあしきまがら  
くうらちひさ  
の心をちひさ  
てまうらちひさ  
あやちひさ

芳とてうらちひさ一仁愛のふあ

まて初しとてうらちひさ  
うらちひさ  
とてうらちひさ  
うらちひさ  
うらちひさ  
うらちひさ

あやちひさ  
あやちひさ  
あやちひさ  
あやちひさ  
あやちひさ  
あやちひさ

うらちひさ  
うらちひさ  
うらちひさ  
うらちひさ  
うらちひさ  
うらちひさ



久々の月お砂ひらららら  
月中 子桂ありとてさすはよ  
きて月お砂ひららららら  
あつたくさくさのふゆ  
伊勢極はすもくろしとて七条  
旅へてまらりける  
冬分の中 子杉ひらららら  
まはたさのこがたのむらさ  
わまをさへんらららら  
あはをいさるららららら  
初まらりたるあさり  
ゆいゆいさささささ  
川お砂ひららららら  
あつたくさくさ  
ひららららら

だつたせらららららら  
とらららららら人のあつた  
久々の月お砂ひらららら  
そこらららららららら  
又あつた人のあつた  
あつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあ

君が年は佳くうぬれぬの勤  
解由中務よりお富おゆの糸  
のすめくき

中務(隣) 在圃の君

お富乃あれより一もよとが  
秘くすし一あはまらりり

あがたりし人の心もあれこ  
ろなり

くわしとていふの心とあう  
りりし人の心があつりおとち

しとあはれ思ふの心あまを  
しとあはれしとれつての心

れはつてつての心あはれ  
なりしとあはれなり

あはれなり 中務(隣)  
の心とあはれなり

どふりの月あふれだつてよ

くありあつてお富より

甲してつていひたつてお富

がまはつてお富より

人の心もあまはつてあつた

あつたつてあまはつてあつた

あつたつてあまはつてあつた

あつたつてあまはつてあつた

あつたつてあまはつてあつた

さうたつていふ 中務(隣) 在圃の君

あはれなりしとれつての心

あはれなりしとれつての心

あはれなりしとれつての心

あはれなりしとれつての心

あはれなりしとれつての心

あはれなりしとれつての心

あはれなりしとれつての心

あはれなりしとれつての心

あはれむとぞ呼らばらとせや  
さうあらん ちのこをあらじ  
えらうちのこをあらじとせ  
祢とれをあらじとせ  
あはれむとぞ呼らばらとせや  
あはれむとぞ呼らばらとせや  
あはれむとぞ呼らばらとせや

あはれむとぞ呼らばらとせや  
あはれむとぞ呼らばらとせや  
あはれむとぞ呼らばらとせや  
あはれむとぞ呼らばらとせや  
あはれむとぞ呼らばらとせや  
あはれむとぞ呼らばらとせや  
あはれむとぞ呼らばらとせや  
あはれむとぞ呼らばらとせや

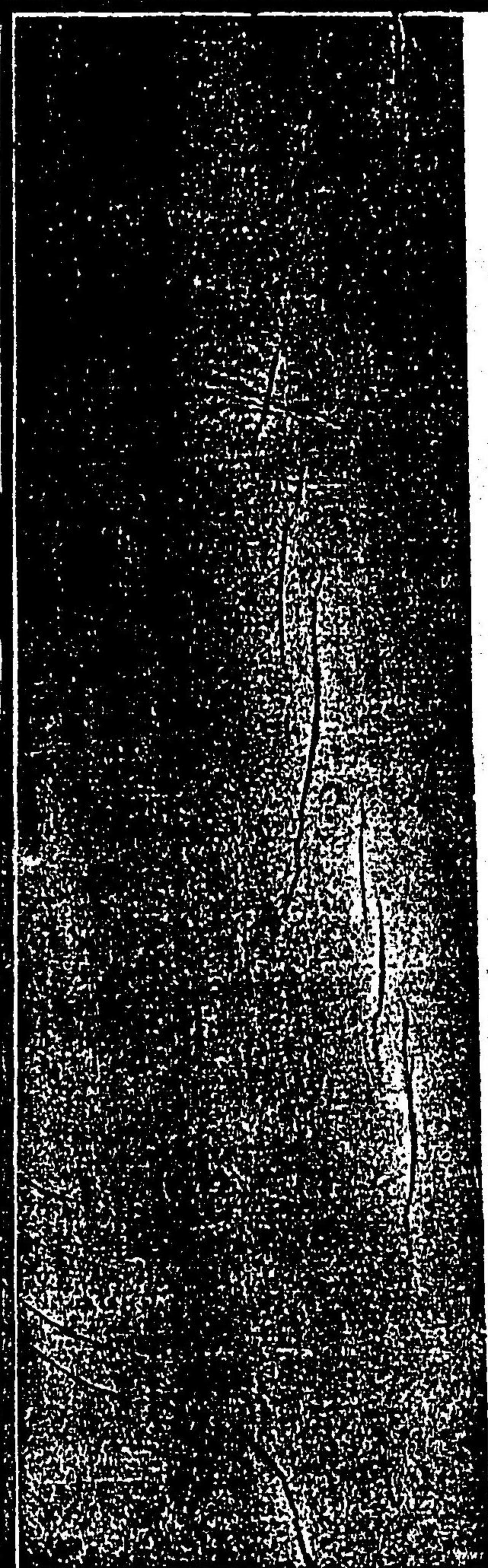
あはれむとぞ呼らばらとせや  
あはれむとぞ呼らばらとせや  
あはれむとぞ呼らばらとせや  
あはれむとぞ呼らばらとせや

あはれむとぞ呼らばらとせや  
あはれむとぞ呼らばらとせや  
あはれむとぞ呼らばらとせや  
あはれむとぞ呼らばらとせや

あはれむとぞ呼らばらとせや  
あはれむとぞ呼らばらとせや  
あはれむとぞ呼らばらとせや  
あはれむとぞ呼らばらとせや  
あはれむとぞ呼らばらとせや  
あはれむとぞ呼らばらとせや  
あはれむとぞ呼らばらとせや  
あはれむとぞ呼らばらとせや



延長八年任土左守 在國載五年六年之島原平  
甲午五未歷三百一紙不精摺其字又鮮  
明也  
不讀得歷多只任本書也 有朱下



明治十六年五月二日出版御届  
同 年同月刻成

定價四拾文

撰者

福岡縣士族

紀貫之

出版人

高田芳太郎

福岡縣福岡區博多  
糺屋町十二番地

同

同

山崎登

同縣同區福岡橋口町  
四十番地

同

同

林芥从

同縣同區福岡筥子町  
百三番地

